

magazine kobekko

april

1968 no, 84

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子

4




神戸っ子 昭和40年1月20日第三種郵便物認可

昭和43年4月1日印刷 通巻84号 昭和43年4月1日発行 毎月一回

Reizo

ゴールドのブーケに
真珠をちりばめた
華やかなブローチ
お嬢様の新しい門出を
祝う装いに
ミキモトが送る
オリジナルデザインです



 御木本真珠店

神戸店=三の宮-神戸国際会館

Tel. 22-0062

大阪支店=堂島-新大ビル

Tel. 363-0247

京都=ミキモトパール京都(新門前通り)

Tel. 541-8171

都ホテル・京都ホテル・京都国際ホテル

大阪=阪神・高島屋・松坂屋

本店=東京-銀座4丁目

© 1968 - 4

ある詩人が「多くを云うなという

ある画家が「チラッと見るだけだという

ある作曲家が「指を動かすなという

その女の耳は貝殻だった



w. Amakura, 68



美しさを創る オート・クチュール

アスター ニュートン

神戸トアロード TEL (33) 1818

大阪阪神 TEL(361) 1201

Goro



神戸っ子 '68

—— 大山道子

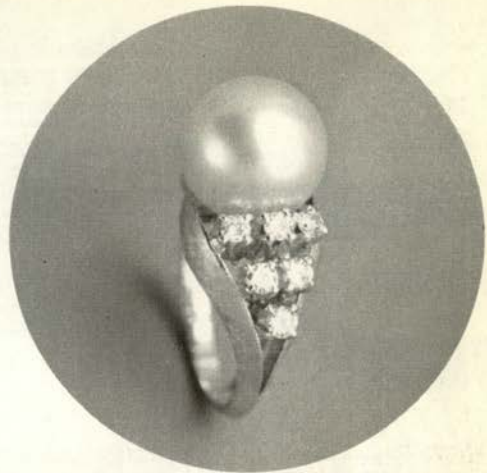
〈グラフィック・デザイナー〉

—— カメラ・奈良勝彦

大山道子さんは、昨年七月から半年間、女ひとりヨーロッパ・スケッチ旅行に出かけた。勇敢なお嬢さんである。イギリスやフランスなど五カ国をまわってきた彼女は、「やはり神戸が一番いい！」と絶賛する。専門のグラフィック関係も、いろいろ見てきましたが、日本のレベルは決して低くないといえる。ハリのあるアルトの声、ショート・カット、ミニ・スカートと遠慮なくしやがるコートのカッコよく着こなした、ポイントシニュなお嬢さんである。

昭和十九年、長田区の生まれ。県立工業高校デザイン科卒業後、阪急百貨店宣伝課に勤務。彼女の實力を存分に発揮して活躍していたが、この二月で退職し、現在はフリー。県宣美会員。日本水彩画会兵庫支部所属。二年後の万国博の年には、イギリス青年と結ばれるなど、ロマンティックな話題につつまれ、最高にシアワセ！といったところ。私って欲ばりですから、これからもデザインだけでなく、いろんなことをやりたい！と語る大山道子さんは、今後が楽しみな、頼もしい神戸っ子である。写真左・神戸港四突にて、右・東遊園地にて。





TASAKI PEARLS

●美の伝統自然の神秘はタサキパール輝きです

田崎真珠

本社 神戸市灘区旗塚通6-9

三宮店 神戸新聞会館秀品店内

銀座店 東京都中央区銀座西6-5

パールファーム・溜池電停前(ショールーム)

ヒルトン店 東京ヒルトンホテル内

オータニ店 ホテル・ニューオータニ内

札幌店 札幌パークホテル内



あなたの真珠はパール・マークのお店で
日本真珠小売店協会加盟店





神戸っ子

'68

鈴木啓示

〈近鉄バッファローズ・ピッチャー〉

カメラ・奈良勝彦



三原新監督を迎え、今年こそは初優勝を！とはりきる近鉄バッファローズ。開幕前としての明石球場での合宿訓練にも熱が入る。昨シーズン、21勝を記録して一躍エースとして注目をあびた鈴木啓示投手。彼の速球をみて、「こんなすばらしい投手を見たのは十数年ぶり！」と三原監督がうなったという。入団して三年目。今年は去年より一つでも多く勝つよう、まず22勝を目標に頑張りたい！とそれが達成されたら、30勝して優勝！と意欲的に語る鈴木投手は、激しいトレーニングの毎日から、エースとしての自信と実力を養い、一段とピッチングにもスピードと冴えを見せている。

昭和二十二年、西脇市の生まれ。育英高校出身。在学中は、春の選抜大会で甲子園に出場したが、一回戦であっさりと破れてしまったそうだ。趣味は食べることと寝ること。ほかにレコード、映画鑑賞。今年、成人式を迎えたばかりの若さにあふれた現代青年、鈴木啓示君は、身長一八一センチ、体重七七キログラムの伸びきった肢体を、もてあましているかのよう、に大きく伸びをした。

黄金の左腕。鈴木啓示投手の今シーズンの活躍に期待しよう。西宮市在住。

〈写真は明石球場キャンプ中、錦明館にて〉

BAGS TAKAHASHI^{GOL} GOODS



伝統と信用ある元町に
KOBEセンスを生かして新装開店！

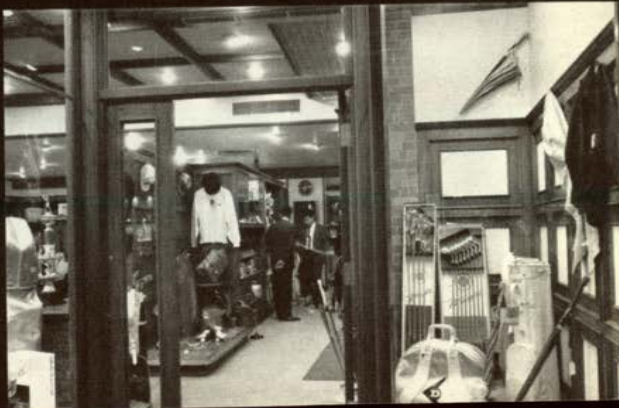
GOLF & BAG **タカハシ**

神戸・元町3丁目 TEL33-1172-7782

▶ 定評あるタカハシの
オリジナル・バッグコーナー



▶ ゴルフコーナーには、NO.1の
ダンロップ用品を中心にあらゆる
ゴルフ用品がそろっています。





「彫刻不毛の乾地と言われた兵庫県にわれらは集団の旗印を掲げました。」

兵庫県青年彫刻家集団が誕生したのは、昭和四十一年二月九日。洋画家に比べて、彫刻家はその数も少なく、職人的な仕事という性質上からも交流の場がなく、バラバラの活動状況であった。

そんな彫刻家が、集団として一堂に作品を集めて発表し会員間の刺激だけでなく、一般への啓蒙にも役立ちたいと話し合って生まれたのがこの集団。

二月十九日から五日間、大阪北のあかお画廊に続いて、神戸国際会館五階ギャラリーで第三回展を開催した。

会場に所収しと並んだ作品は、素材は木、金属、プラスチックとさまざまであるが、すべて抽象の作品。その意欲的な作品が「青年」を感じさせる。

県内での発表の場が少ないことが悩みだが、中央への出品だけに終らず、微力ではあっても地方文化への浸透をというのが会員皆の願い。

このような彫刻家の集団は恐らく他府県には見られないものであり、兵庫県青年彫刻家集団は、一回展、二回展と回を重ねるたびに、その反響の輪を大きくしている。

写真は前列左から、小林陸一郎、川久保健三、山口牧生、後列左から、小川陸朗、斎藤正親、藤本敬八郎、小黒淑江、渡辺宏、大垣圭介、広嶋照美、納健一神戸国際会館五階ギャラリーでうつす。



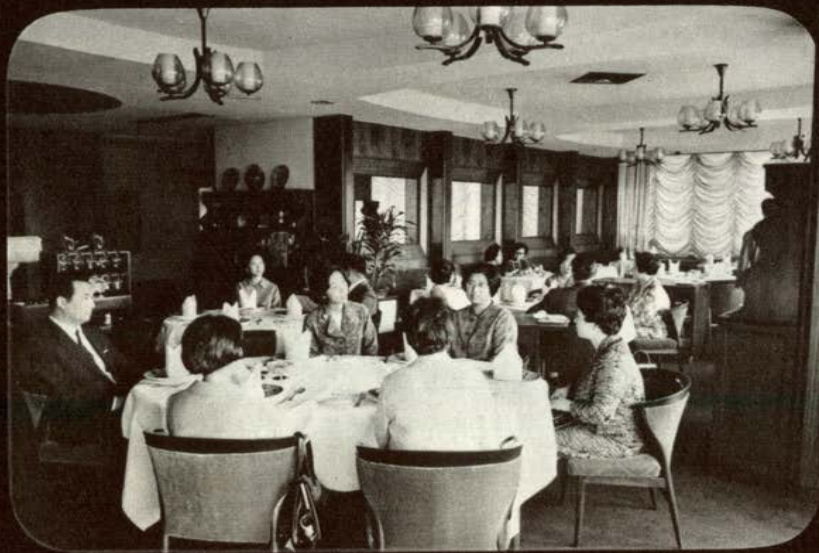


港の見えるレストラン

*

KITANO CLUB
Restaurant

CORAL KITANO
北野町 Tel. 23-2251



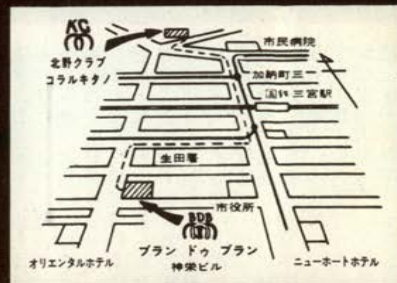
KITANO CLUB JUNIOR

RESTAURANT

Blanc de Blanc

ブラン ドゥ ブラン

Tel. 32-1455 京町77-1 神栄ビル



★コウベスナップ★



写真上 五突いっばいに白い船体を接岸したオーカデス号
 写真下 左・中央は五突に並んだ土産物屋で買物する観光客
 右は両手いっぱいの買物を終えた老婦人(大丸前で)

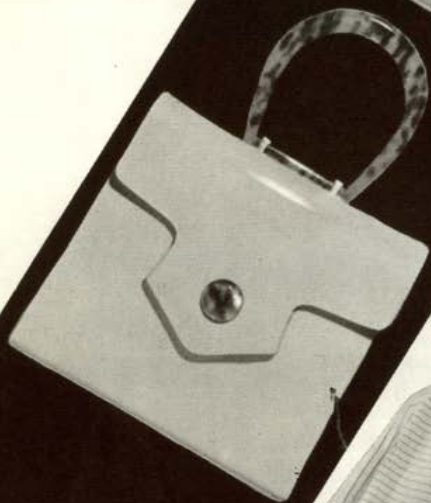
二月十五日朝、春を告げる
 外国観光船の第一陣、英国船
 オーカデス号(二八、〇〇〇
 噸)が、神戸港第五突堤に入
 港。
 乗客千五百二十五人は、ま
 だ肌寒い神戸の街をあちこち
 ショッピングに余念がない。
 両手にさげた荷物の中味は、
 さて？



SPRING HAS COME!
MURATA PEARL
PALIS HANDBAG
NIT SUITS



000.400x (YUUC)2YVYK4VY.7113K4-7



000.400x (YUUC)2YVYK4VY.7113K4-7
000.400x (YUUC)2YVYK4VY.7113K4-7



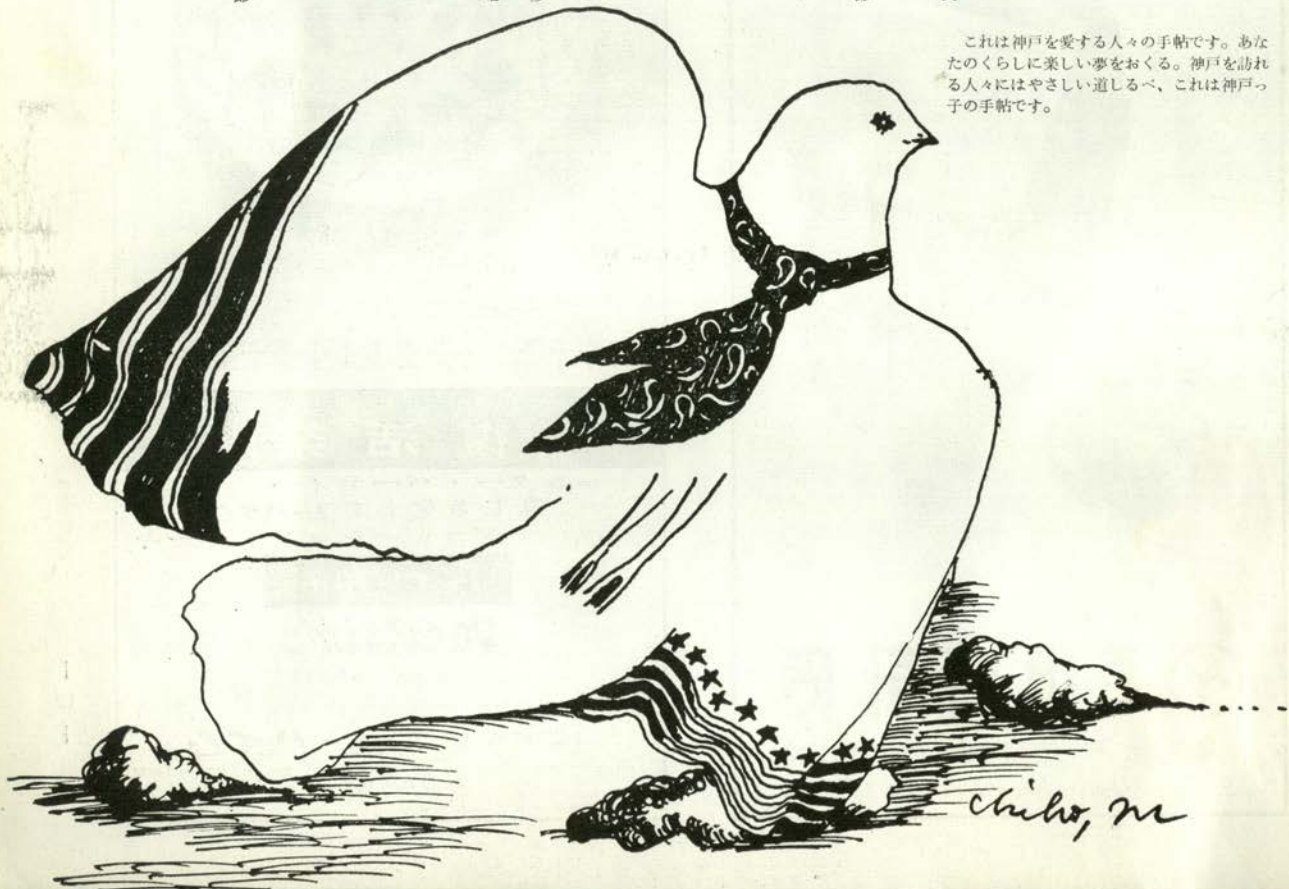
000.400x (YUUC)2YVYK4VY.7113K4-7

Murata

村田*真珠/銀座山岡*毛皮/船乗婦人百貨
さんちか*レイスタウン・TEL 39-3886-7

4月目次

表紙	小磯良平
1	Second Cover / 津高一
3	神戸子78 / 撮影 奈良勝彦
7	⑦ 大山道子 ⑧ 鈴木啓示 ある集い / 兵庫県青年彫刻家集団 コウベ・スナップ
9	わたしの意見 / 山内六郎
13	随想三題 / セレイ地獄・永田耕衣 すずめのお宿、ただ今「0匹」・細見彬文
19	進水式・坂部光男 ある集いその足あとと斎藤正親
18	随想 / 人の出発・岡部伊都子 随想 / 工学的な都市 K O B E ・新野幸次郎 随想 / 私の神戸一中時代・山田稔
33	神戸っ子対談 / 岩武昭彦・石野成明 経済ポケットジャーナル・オフイスレディ 技術ジャーナル / 諸岡博熊
34	ダイナミック神戸④ 阪東調帯の巻 春木一夫・たかはしもう
37	神戸の集いから 神戸モダンリビング / 水谷順介 + 神戸アーバンデザイン / チームUR
44	CINEMA⑥ / 淀川長治 神戸のど真中を通る神戸っ子鉄道開通 動物園飼育日記⑧ / 亀井一成
49	PORT LOOK / 福富芳美 神戸カーニバルへのお誘い
52	神戸カメラ博 / ある日ある時・奈良勝彦 神戸っ子会議 / 未来にかける国際都市 富崎辰雄・津高一・牛尾吉朗・森中馨
56	藤本昭・水谷順介・安達昭三 リラクセス・インタビュー④ / きく人・向井修二
59	神戸遊戯誌⑥⑦ / 青木重雄 神戸うまいもん巡礼⑥ / 赤尾兜子 マダム・ド・コウベ③ 福富芳美さんの巻
65	／竹田洋太郎 百店会だより
69	ポケットジャーナル 連載物第7回・非悪童物語 / 足立巻一 連載小説 / 兵庫の女 / 二六回 / 武田繁太郎
84	ダイナミック神戸④ 阪東調帯の巻 こうべろまん④ / 六甲山
86	文・陳 舜臣カメラ・緒方しげを カメラ / 米田定蔵 レイアウト・カット / 港野千穂
95	119 116 110 100 96
96	95 90 88 86 84 73 65 59 56 52 49 46 44 43 37 34 33 29 21 18 15 13 9 7 3 1



これは神戸を愛する人々の手帖です。あなたのくらしに楽しい夢をおくる。神戸を訪れる人々にはやさしい道しるべ、これは神戸っ子の手帖です。

*世界で最も名誉
ある時計ロンジン



特約店



美甲時計店

元町店・元町三丁目 TEL 33-1798

三宮店・さんちかファンシー・タウン TEL 33-8798

Happy Easter 4.14



イースター
《復活祭》

イースター・パーティー
楽しさをますユ・ハイム
デコレーション・ケーキ

ドイツ菓子

Faehheim's

ユ・ハイム®

ドイツ菓子 ユ・ハイム

本店 神戸市生田区下山手2-31(生田神社前) 電話(33)1694, 8063, 0067
三宮店 神戸市生田区三宮町3-15(大丸前市電駅) 電話(33)2101, (39)3808
さんちか店 神戸市二宮地下街スイーツタウン 電話(39)3539
その他有名百貨店にあります



山内六郎

〈神戸緑化協会事務局長〉

■緑化週間にあたって
みんなの募金で
共有の森をつくろう

緑の季節がまためぐってきた。学童や婦人会、ボーイスカウトなどによって、家庭や街頭に緑の羽根募金が呼びかけられている。だが、中にはいやな気持ちで受けとめる方、さらにはこんな思いの方もあらう——いつまで、われわれに依存するつもりなのだ。公園にしても街路樹にしても役所がやるべきことではないか？緑の六甲を背に近代ビルの立ち並ぶ今日の美しい神戸に何の必要がある。わが家にだって植える余地もない。共同募金、赤字募金は、それぞれ不遇な人々への人間愛であるが、緑の募金は納得がゆかぬと。

ごもっともな言い分ですが、こうでもあるのです。国の総予算五兆に対し、この面の予算は、わずか十五億、〇、〇三%（昭和四十二年度）。二割自治ともいわれる地方の役所がこの数字では何ができません。また、国鉄に乗って街を見下ろしてみると、個人の庭がなくなつた戦後、六甲を背にするだけにかえて屋根と壁のみの街と化したのがめだち、昔日の品位を失った感があります。この品位の復活は、さきの行政施策から見て住民の郷土愛に訴える以外ありません。しかも空気は当然として、“光と水と緑”は都市生活者の三要素ですし、神社寺、学校その他公開的広場で樹を植える場所はまだまだ残っています。戦後の所産である新制中学の校舎は特に緑に飢えています。裸の墓地も目につきます。そのような行政の及ばない所、あるいは及びかねる所に緑の募金は生きてゆくのです。各々庭の持てない今日、それらを共有の森と考えられないでしょうか。募金にかぎらず、緑化協会の会員としてもまた、主旨に賛同され、入会を願いたいものです。

今年には明治百年、記念事業は一〇〇%といつてもよいほど、森づくりである。平常の無関心の罪ほろぼしかとも皮肉りたいほどだが、結構この上もなくよいことです。願わくはこの年、一〇〇年間統けて樹を植える「植えはじめの記念」の年としてもらいたいものと思いません。

HAYAMI CLINIC

内科ドック
内科精密諸検査
通院・入院

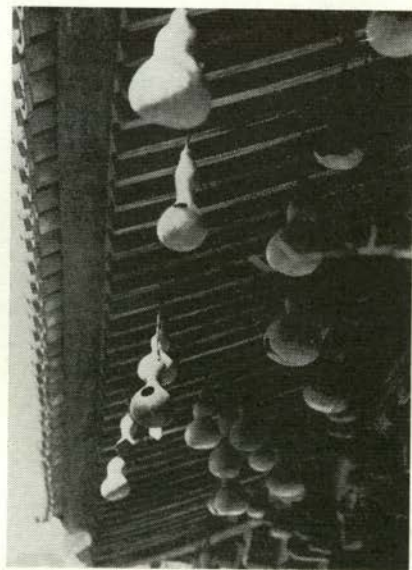
速水クリニック

市電太田町交差点東300米浜側

TEL <KOBE> 62-4031~2



随想三題



雀のいない禅昌寺の瓢箪

セキレイ 鶺鴒地獄

永田耕衣

△俳人△

須磨に移住してくる直前、神戸に雀がいてくれるだろうかという不安を感じた。幸い雀は群をつくって飛び廻るほどいた。私は安心して朝々逢う雀の一人に無類の親しみを覚えた。しかし、それも眼前日々の絶景、馴染めば山中山を見ずのいていたらくとなってしまう。その間十三年の月日を費した。播磨平野の田圃の中で育った私は、山も海も好きにはなれない。しかし、田圃を見たくても朝の散歩圏内では見つけようもない。やむなく、須磨海浜公園を毎朝、日の出前に歩いてくる習慣がつい

た。公園は人間の手入れが行き届きすぎて平凡無味になった。ただ波打ち際だけは、昔とそう変りなからうと、渚の局所に眺め入るのである。

いつのころからか、この海際の砂原で、毎朝脊黒鶺鴒の二羽づれを見かけるようになった。そして彼女たちを日々恋い慕うようになった。朝々海岸を散歩するという意識が、あのセキレイに逢いに行くのだという意識に変わった。そのセキレイはここ数年来、毎年晩秋のころ現われて翌年初夏ころまで毎朝同じ場所で見かけられるのである。昨年は十一月十三日に姿を現わした。数年来見覚えのある二羽づれである。どこに見覚えがあるという確証はないが、そういうことになって置かぬと、馴染がう

すれて寂しいのである。

下水が海に注いでいる、その流れを挟んで波打際へ傾斜する砂場に彼女たちは決まっているのだ。絶えず小走りがちに餌を漁っているキリッとしたその姿は美人以上だと思う。実にシャンと調った立派な形である。

毎朝、日の出前の散歩者は、冬季は二、三人を越えないので、私はほとんどこの海岸線を独占しているようなものだ。それで、いつものセキレイは、私を見るとチチッと鳴きながら一度は飛び翔つ。挨拶のつもりだろう。そして、私の視界から消え去ることなく近々と降りてまた餌を漁り歩く。「老人や鶺鴒しのび寄る脚下」という虚々実々の一句を得たのもこんな時である。

二羽のうちどちらかが先に飛びしばらくして後の一羽が同じ方向に飛び翔つ。あるときは別れ別れになるが、いつの間にか二羽揃って地上を歩き廻っている。元通り二羽づれになるのを見とどけないで、そこを立ち去った時などは実に寂しい思いをするのである。

私はその二羽づれを夫婦だと信じたが彼女たちと呼ぶことにしている。その姿形はいつも瀟洒で澄んでいる。長い尾を絶えずリズムカルに上下に振り歩く。春先は

垂直に立てたまま歩いていることがある。繁殖期を告げているのだろうが、彼女たちはいったいどこで寝泊りしているのだろう。陽春になって散歩者が多くなると、彼女たちは安らかなその極楽漁り場をおびやかされがちとなるだろう。

私は、彼女たちに恋慕の情をつのらせながら、老来、鼻毛までがセキレイの腹毛のように白くなつた体軀の内に、ひそかなる青春の血を覚えることがある。その腹いせのつもりではないが、某日こんなひどい句を作ってしまった。

鶺鴒の地獄あきらか共漁り

生きることは地獄である。同時に極楽でもあろう。その生の姿が美しければ美しいほど、この地獄感はつり、極楽感もつのである。いつの日にか彼女たちが、もしこの海岸から永遠にその美容を消してしまつたら、私の恋慕の情は、しかと地獄の情緒だけに凝りかたまつてしまふにちがいないのである。因みに、セキレイはスズメのように群れていることは絶対にない一羽ないし二羽づれでいることが精々である。すなわち、徹底孤高な水辺の優鳥で、無季鳥というこ

すずめのお宿 ただ今〃〇匹〃

細見彬文

△日本生態学会員 青英高校勤務▽

私の住む団地にはベランダに小さな花壇がついているから、みんなは植木鉢を置いたり、盆栽を作つたりして楽しんでゐる。私は無精者だからそんなことはしない。花壇にはなにもないし、眼下は新長田のゴム工場地帯の煙突が立ちならんでゐるのが見えて、いとも殺風景である。五階の窓から見える自然といへば、ビルごしに飛ぶスズメの風景ぐらいである。

いたずらをしてみる気がおきて花壇にお米を少し撒いたところ、二日ほどして一つがいのスズメがやつて来た。花壇の肩にとまつてお米をながめていたが、最初は手をつけずに帰っていつてしまつた五日目に、またお米がなくなつたの気がついた。このころからスズメの数はめだつて増え、十日目にもなると入れ代り立ち代り、レストランは大繁盛になつた。ケシカをする奴もおれば、弁当箱に作つた水飲場で水遊びをするものもある。これはゆかいと続けておつたら、家内からほどほどにせよ

と文句がでた。お米はもつたないし、四階の人の乾していた蒲団がよごれていたというのである。残念ながらやめざるを得なかつた。そうこうしておるところへ、鳥

の好きな青年二人がやつて来た。なにか鳥の生態を調べるのによい仕事はないかという。私は鳥の専門家でないが、内のできないのを外でやれ、と思いついて、板宿の禪昌寺にかけ合つた。禪昌寺は雀のお宿で知られているものの、戦後はスズメがさっぱり寄りつかなくなつてゐる。これに動物生態学を応用して昔のように復活しようというのである。それをしながら青年たちは生態の観察をするとい



雀がこない 雀のお宿 (禪昌寺)

う段取りである。お寺さんは一も二もなく賛成してくれた。彼等はさっそく仕事にかかつてゐる。戦前はお堂にぶら下つてゐる瓢

簀に巢を作り、賽銭箱からこぼれた米粒や、堂守りの絵かきさんがやる餌をついばんでスズメ達は大団地を作っていた。当時は近所の百姓がお寺に抗議に来たこともあるという。ところが堂守りも去り賽銭箱にお米を入れる人もいなくなって食糧がなくなってしまう。まあいわばどこかの市が作るような市場のない団地に似ている。まかないのつかぬ下宿はいやだとスズメの方からお断りしてしまった。今ではお堂の瓢箪には一羽もない。ただ今「0匹」である。

お寺の周囲にはまだ森が残されているのが幸いだ。前には竹藪もある。調査して見るとスズメの他にキジバトやヒヨ、イカル、ルリビタキなどもいる。これらの小鳥をうまく集めれば、小鳥と人間の社交場ができ上る。サルの餌づけは有名な例だが、餌づけは本来、小鳥にほどこされるものである。この雑誌がでるころには、もうだいぶ小鳥が来ていることだろう。

進水式

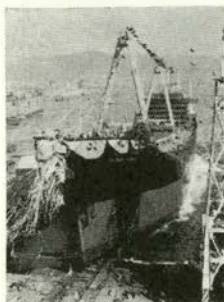
坂部光男

△三菱重工神戸造船所船殻課▽

某月某日午前八時、船台に紅白

の幕が張られ、美しく化粧された新造船が、静かに進水式を待っている。

船主の命名に続いてささえ綱が切断され、船首に清酒のしぶきを浴びつつ、静かに巨船が船台を滑り始める。船主に高くつりあげられたクス玉が割れ、五色のテープの中を平和の使節、白鳩が舞いあがり、同時に神戸在港の船舶が一せいに吹き鳴らす汽笛に祝福されながら、万雷の拍手と共に、その雄姿を神戸港に浮かべる。



進水する せんだん丸

式典は、その全行程をほんの数分間で終えてしまうものであるがこのはややかな光景は、造船所の一番暗れがましい行事である。

こうした進水式が、当造船所では一カ月平均一回は見られる。個人の体験では、昭和二十三年の生田丸から四十三年のせんだん丸まで、一四九隻の進水式を見てきた。この一見はなやかに見える進水式の舞台裏でも、黙々と汗を流している重要な裏方さんがいる。

それが「船台大工」と呼ばれる我

々作業員である。この作業は予行も仕直しも絶対許されない。そのためには、造船所でも選り抜きの従業員約二十名が常時配属され、進水行事関係全般がその仕事で、船が船台ののつてから降りるまでの重要な作業に取り組んでいる。

まず空いた船台に船を据える場所を設定するが、この船底の保持が正確でないと、船が出来るに従って船体が船台からはみ出し、クレーンの運転はおろか、進水も出来なくなってしまう。失敗すれば船一隻を台なしにするから、絶対に失敗は許されない。

特に水中部作業の苦労は大変なもので、悪条件のもとの作業はいうにいわれぬものがある。それに最近には神戸港の海水が汚れ、ゴミのたまり場のような水中に何時間も入っているのだからたまらない。台風でひどく汚染された時は伝染病予防薬を飲んで作業したこともある。

こうした苦労を経て、船台大工としてのすべての作業を終え、式典に臨み、飾り塀が船首に当たって割れ、清酒の匂いをかきながら船を見送るときは、いままでの苦労も忘れて、手塩にかけた愛娘を手離す時のような感慨に浸るのである。と同時にこの気持は何度味わってもいいものである。



★ある集い★
その足あと

兵庫県

青年彫刻家集団

斎藤正親

△グラフィック7頁参照▽

美術界の中でも彫刻家は、画家に比して数も少なく、職人堅気のようなものがある、お互いの交流がわりに少ないようである。県下在住の彫刻家も、お互いの仕事や名前は知っていても、顔を知らないという場合が多いわけである。そこで藤本敏八郎などが発起人となり、抽象を主とする県下在住の作家に声をかけ、会を結成する

ことになった。

最初の集会は昭和四十一年二月九日である。初めはお互いの親睦を目的としたが、回をかさねるうちに、この会として展覧会をやるうじやないかということになり、昭和四十一年六月二十八日～七月七日第一回展を神戸ダイワ画廊で開くことになった。

第一回展は小品が多く、また数も少なかった。しかしそれを通じてお互いの作風もわかり、作品をきっかけとして芸術論も熱のこもったものになり、また会としての結びつきもできてきた。

この会の特色は、会員がすべて青年であるということである。この青年ということは、年令的なことではなく、その意欲のことである。

この会のメンバーは、それぞれ二科、二紀、行動、または無所属等で、独自に活躍している作家達である。青年彫刻家集団は、この若さで結ばれた会であって各々の所属、門閥、そして年令を問わない若々しい彫刻家のつどいであることを念願としているのである。

第二回展は昭和四十二年二月二十五日から三日間、神戸国際会館五階ギャラリーで行なった。一回展に比しくんと充実したものであり、反響もかなりのものであった。

昭和四十三年二月五日から六日間、大阪北区あかお画廊で彫刻展を行ない、それに続いて第三回展を昭和四十三年二月十九日より五日間、神戸国際会館五階ギャラリーで行なった。

現在この会の入会は、会員二名以上の推薦により会員にはかって決定することになり、したがって入会はかなり厳しいものになっている。

三回展で一応この会の基礎が固められたと考えられるので、今後更に努力し、彫刻界の一翼を担うべく会の将来のことも度々話し合われている。県の美術館で野外彫刻展をやりたい、あるいは山奥に集団で入って、木彫シンポジウムをやりたい、又県下の各地をトラックで回って彫刻展をしては等々の計画がねられている。

この夏はメンバーの多数が小豆島で行なわれる石彫シンポジウムに参加することになっている。

□事務所

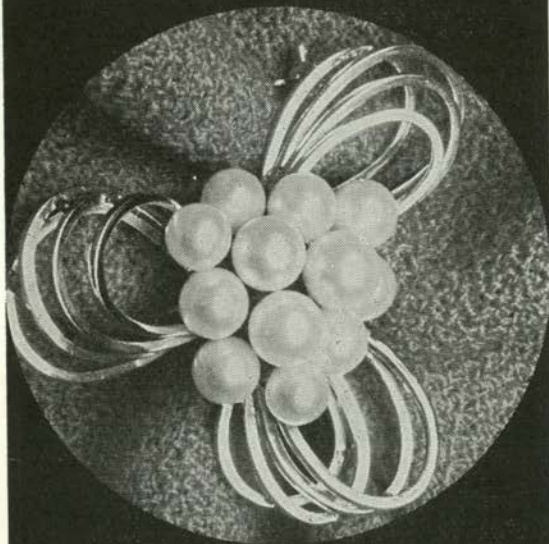
宝塚市野上一丁目七一―九

斎藤方

TEL 宝塚86―1353三八
(写真は神戸国際会館五階ギャラリーで行なわれた第三回展で)

Kitamura Pearls

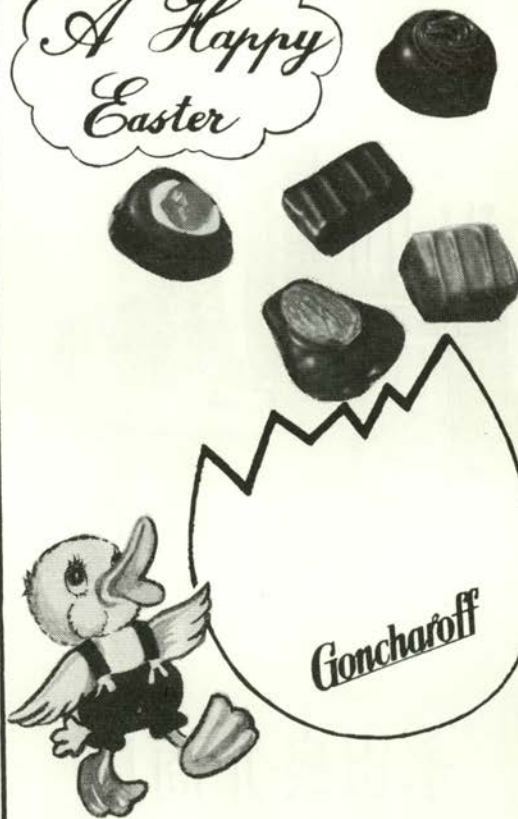
世界の人々に愛される
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL ③③ 0072
東京：スキヤ橋店 TEL<571>8032

*A Happy
Easter*

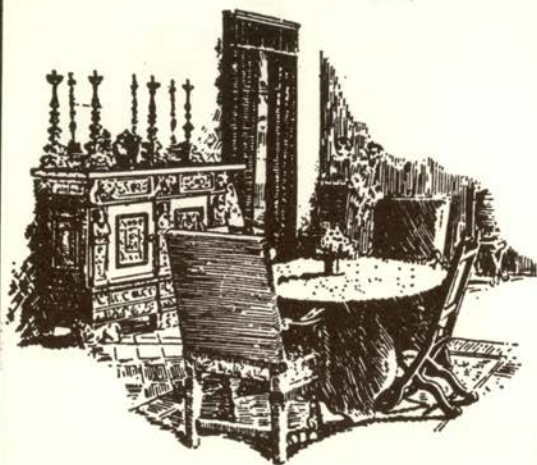


チョコレート*キャンデー

ゴンチャロフ

本社 神戸市生田区加納町4の1 TEL ③⑨-2636
直売店 さんちか・スイーツタウン TEL ③⑨-3563

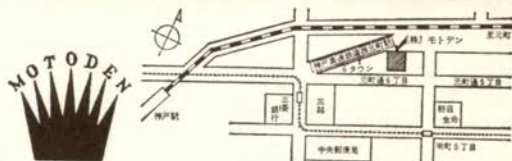
家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

神戸市生田区三宮町三丁目・大丸前・電話神戸(39) 3737(代表)
 東京店・東急百貨店 日本橋店内1階 03(211)0511
 本店(渋谷)6階 03(462)3180

舶来ムード照明の店



株式会社 モトデン

本社 ★ 神戸市生田区元町通6丁目26
 (電話 (078) 34-4196)
 工場 ★ 神戸市葺合区琴緒町1丁目10番地
 (電話 (078) 22-8947)